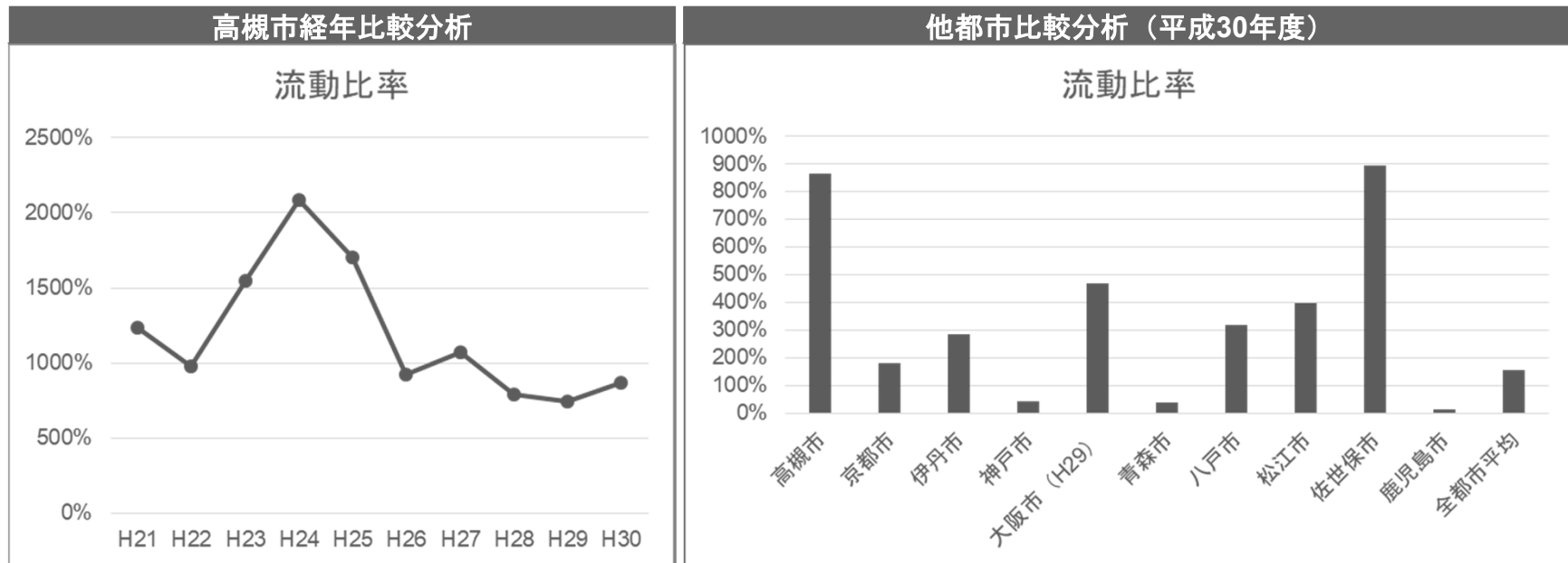


第4回高槻市自動車運送事業審議会 収支状況の現状分析について

収支状況の現状分析について ～ストック面：流動比率～

- ▶ 200%を超えれば優良といわれる流動比率が非常に高い水準にあり、他都市と比較しても非常に高い水準にある。



計算式：流動資産（円） / 流動負債（円） × 100%

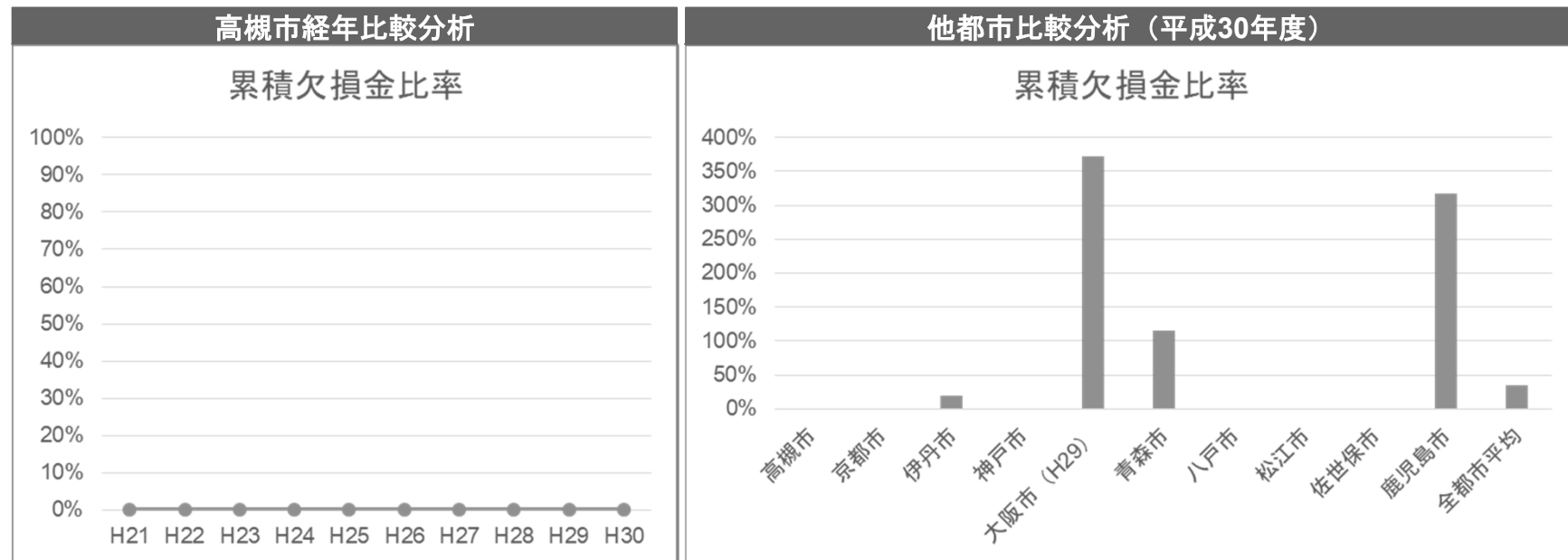
指標の意味：短期的な債務の支払能力を表す指標

分析の考え方：1年以内に支払うべき債務を支払うことができる現金等がどの程度あるかを表す指標であり、100%以上であることが必要であり、一般的に100%未満の場合、1年以内に現金化できる資産で、1年以内に支払わなければならない負債を賄っておらず、支払能力を高めるための経営改善に向けた取組が必要。

出典：総務省ホームページより

収支状況の現状分析について ～ストック面：累積欠損金比率～

- ▶ 高槻市には累積欠損金がなく、財務安全性は高いといえる。



計算式：当年度末処理欠損金（円） / 営業収益（円） × 100%

指標の意味：事業の規模に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のこと）の状況を表す指標

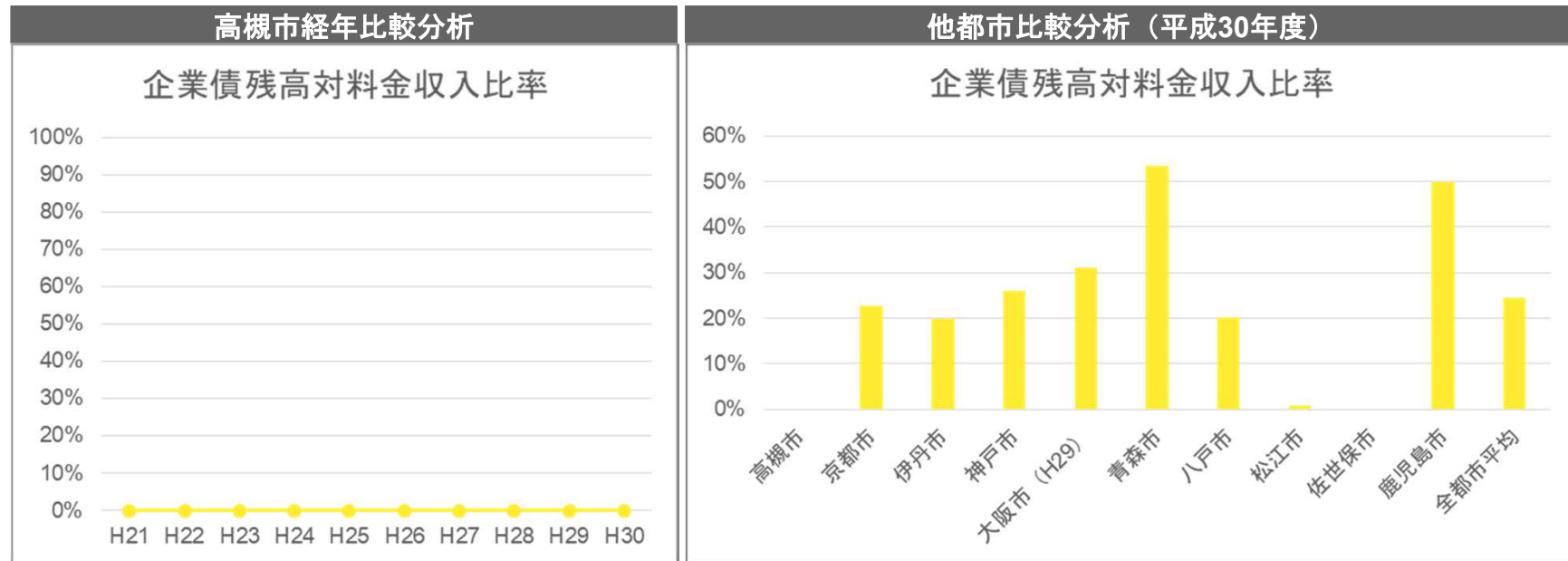
分析の考え方：累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められ、数値が0%ではない場合は、経年の状況も踏まえながら0%となるよう経営改善に向けた取組が必要である。特に、経年で比較した場合に、当該指標が増加傾向にある場合には、早期に減少傾向となるよう経営改善に向けた取組が必要。

出典：総務省ホームページより

収支状況の現状分析について

～ストック面：企業債残高対料金収入比率～

- ▶ 高槻市は企業債残高がなく、財務安全性が高いといえる。



計算式：（企業債現在高－一般会計等負担金（円）） / 旅客運送収益（円） × 100%

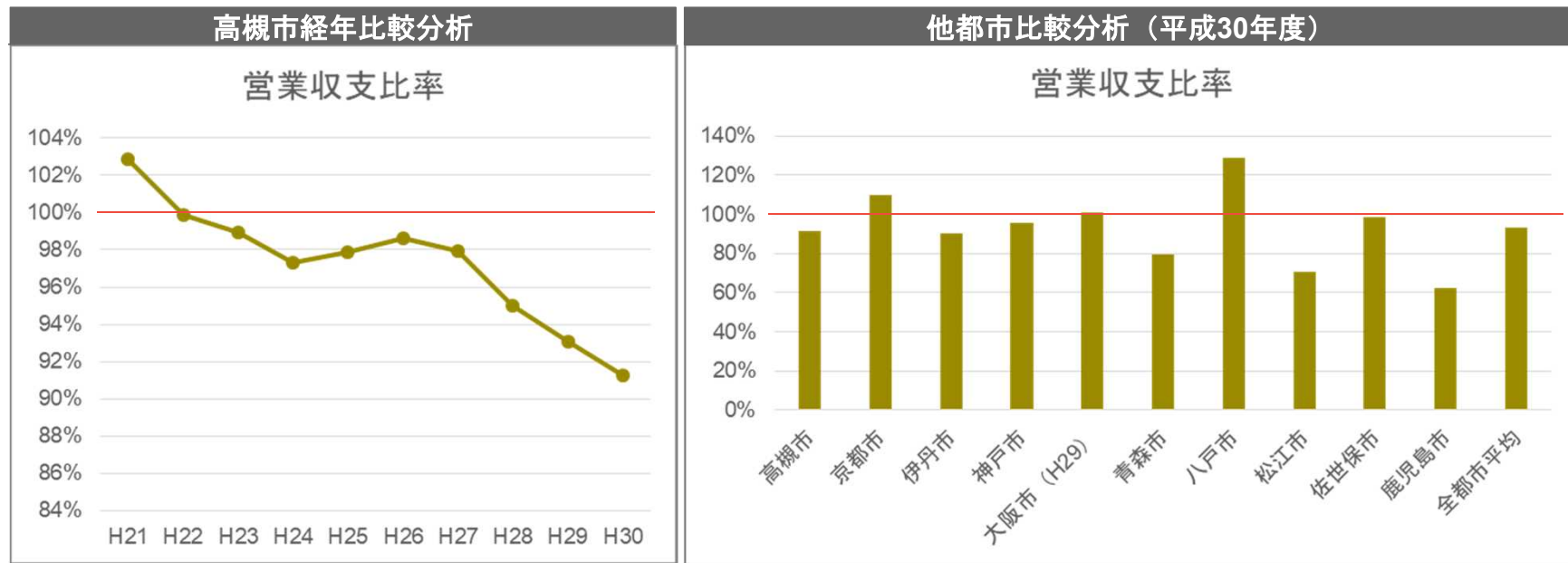
指標の意味：料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標

分析の考え方：明確な数値基準はなく、経年比較や他団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析し、数値が高い場合には、投資の効率化や将来の償還財源の確保といった経営改善に向けた取組が必要。当該指標の数値が低い場合でも、必要な更新が先送りされていないかといった観点を踏まえた分析が必要。

出典：総務省ホームページより

収支状況の現状分析について ～フロー面：営業収支比率～

- ▶ 営業収支比率は減少傾向にあり、赤字が続いている。ただし、他都市も同様の状況にある。



計算式：営業収益（円） / 営業費用（円） × 100%

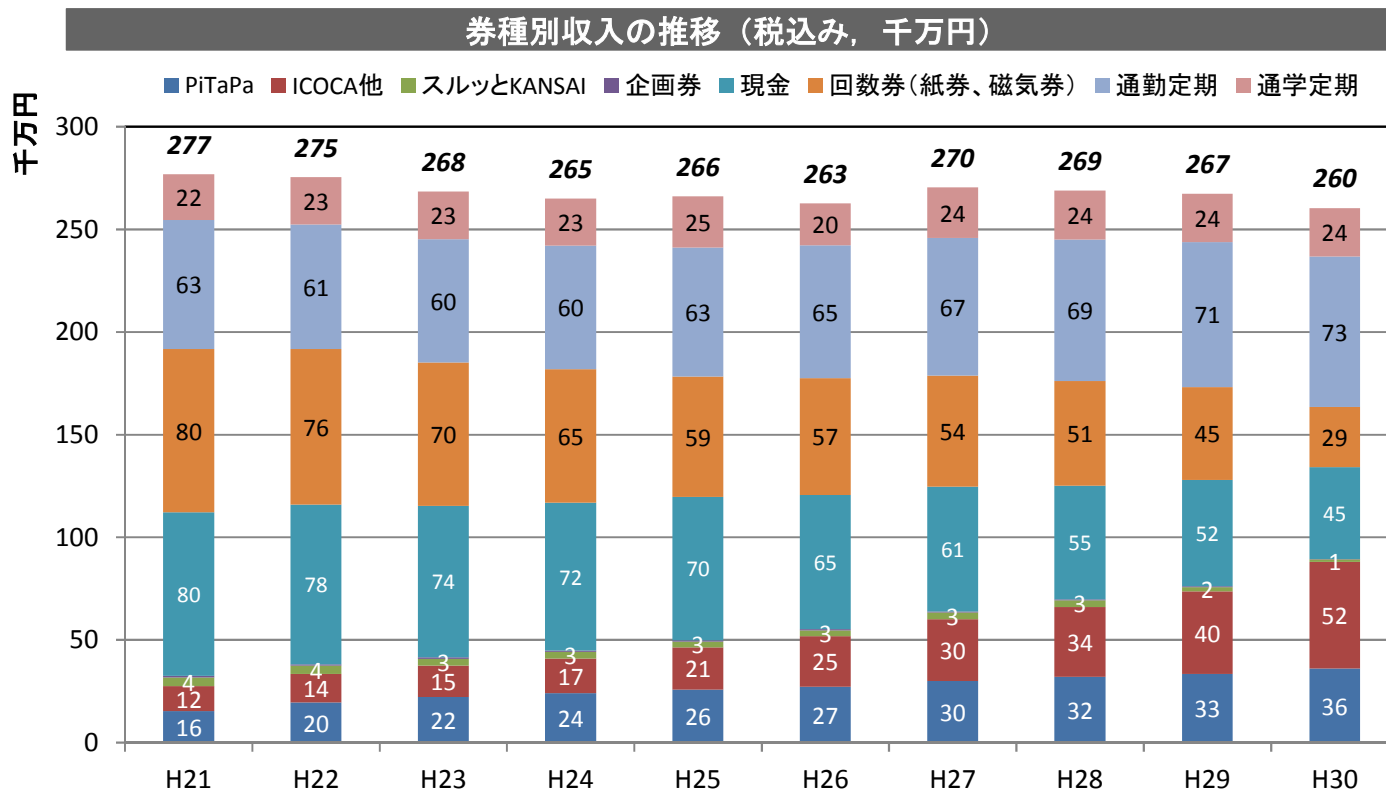
指標の意味：当該年度において、料金収入等の営業活動から生じる収益で、人件費や燃料費等の営業費用をどの程度賄えているかを表す指標

分析の考え方：単年度の営業収支が黒字であることを示す 100%以上となっていることが必要。100%未満の場合、単年度の営業収支が赤字であることを示し、経営改善に向けた取組が必要。100%未満である場合や経年で比較した場合に減少傾向にある場合は、累積欠損金比率や他会計負担比率等の他の指標と併せて分析し、公営企業としての持続可能性について検討が必要。

出典：総務省ホームページより

【参考】 券種別収入の推移

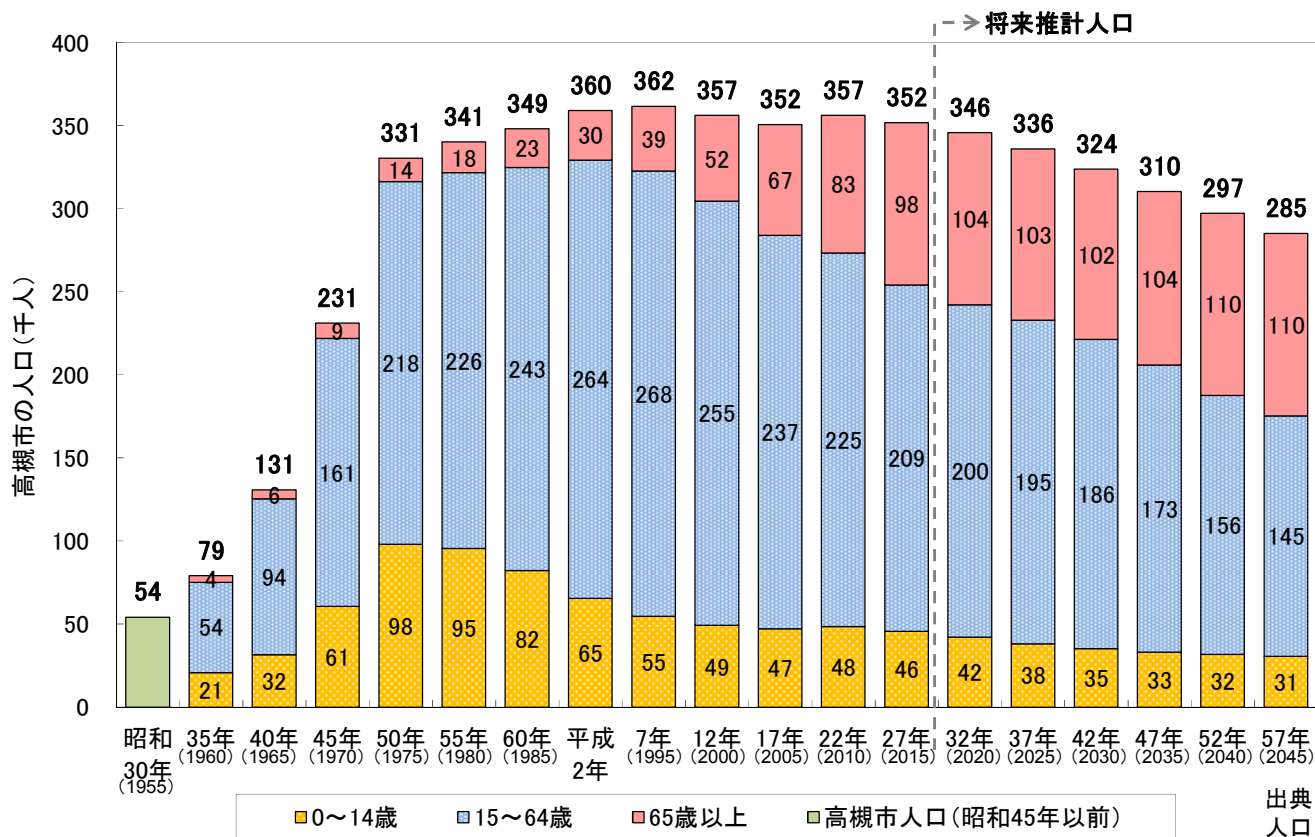
- ▶ 現金、回数券での利用は減少傾向で、ICカード利用者が大幅に増加している。通勤・通学の定期収入は微増となっている。



【参考】 高槻市の人口の推移と将来推計

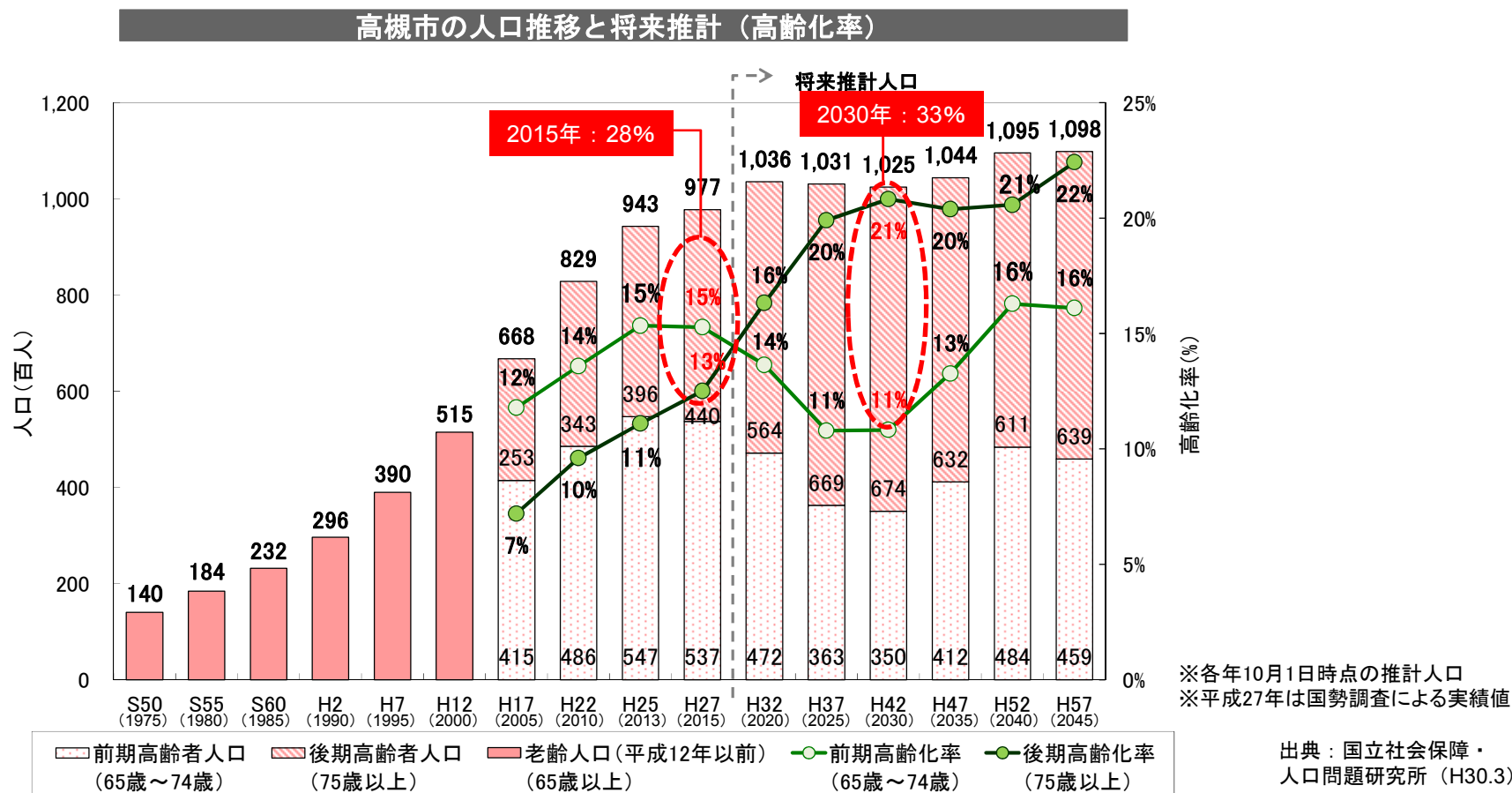
- ▶ 人口は、平成7年(1995年)の約36.2万人をピークに、以降はほぼ横ばいで推移しているが、今後減少すると予測。

高槻市の人口推移と将来推計



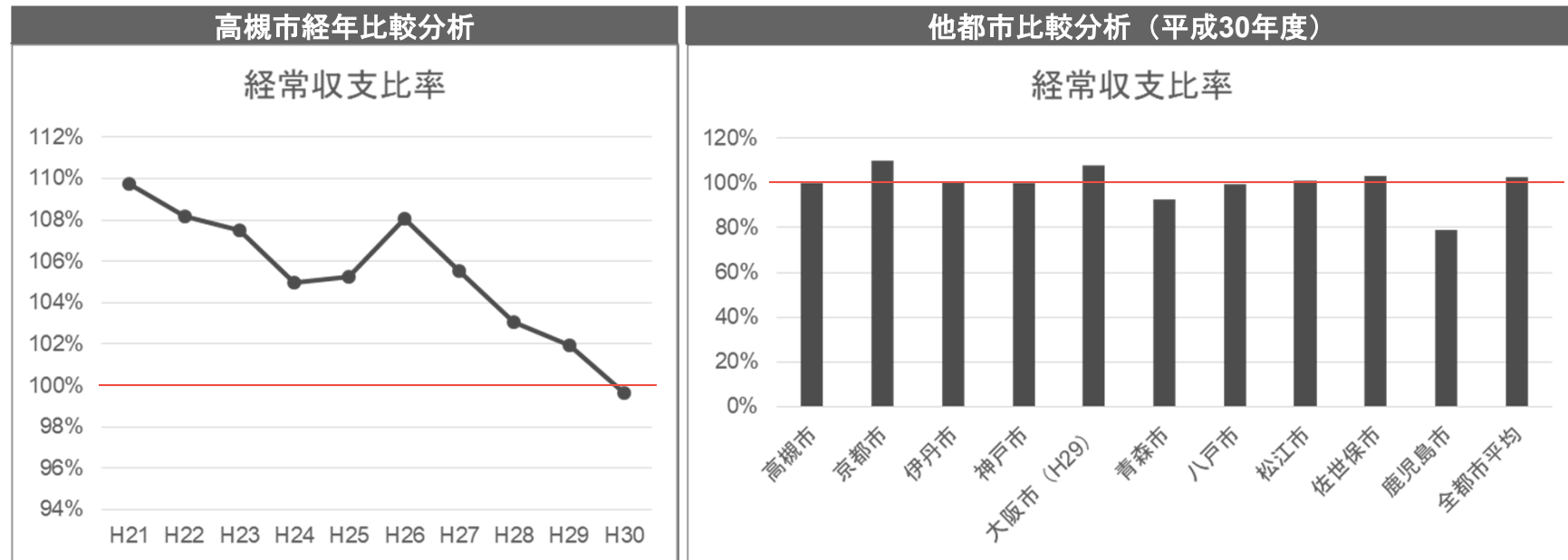
【参考】 高槻市の人口の推移と将来推計(高齢化率)

- ▶ 高齢化率は上昇傾向にあり、平成37(2025)年には後期高齢化率が20%を越える見込み。



収支状況の現状分析について ～フロー面：経常収支比率～

- ▶ 経常収支比率は減少傾向にあり、平成30年度は赤字となっている。ただし、他都市も同様の状況にある。



計算式：経常収益（円） / 営業費用（円） × 100%

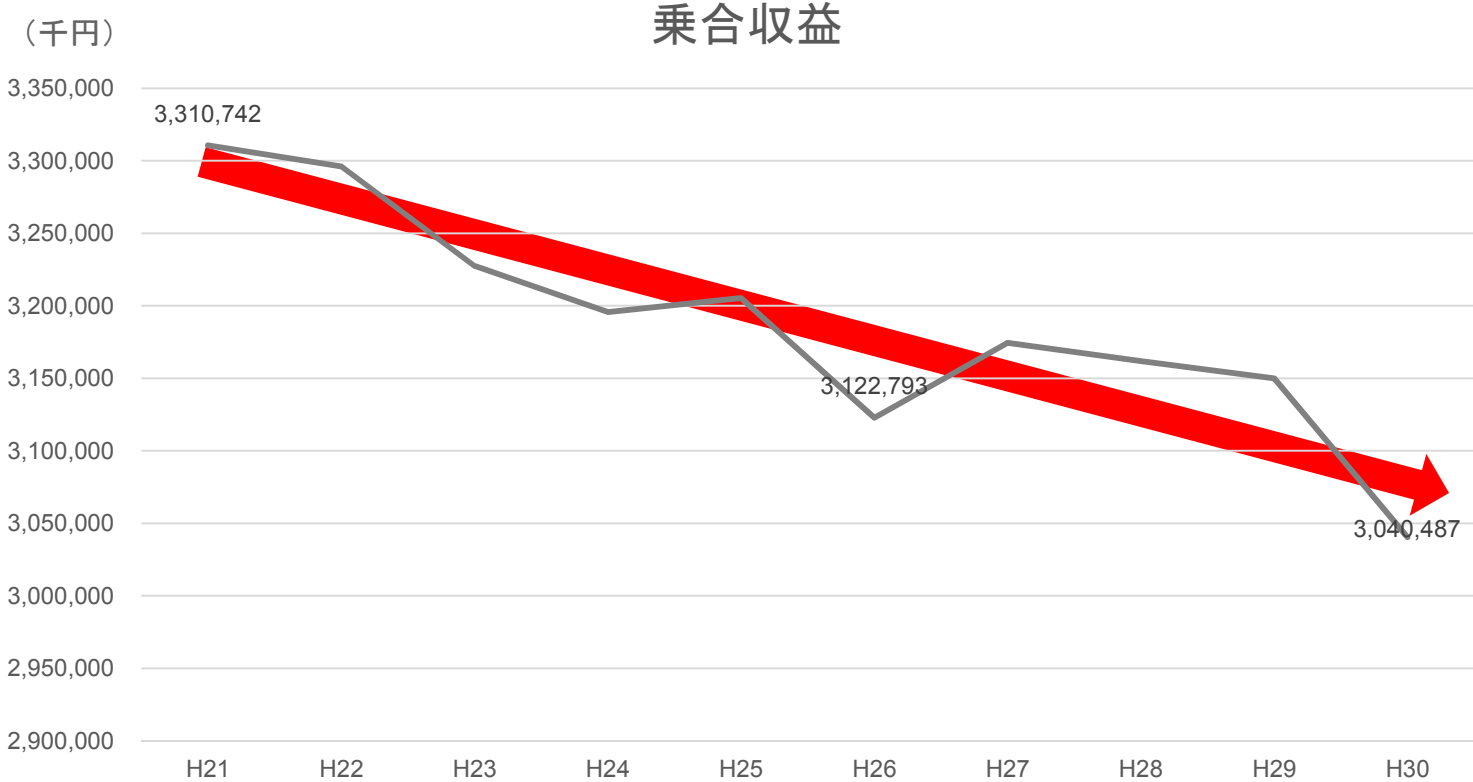
指標の意味：当該年度において、料金収入や一般会計からの繰入金等の収益で、人件費や支払利息等の費用をどの程度賅っているかを表す指標

分析の考え方：単年度の経常収支が黒字であることを示す 100%以上となっていることが必要。100%未満の場合、単年度の経常収支が赤字であることを示し、経営改善に向けた取組が必要。100%以上の場合であっても、営業収支比率や他会計負担比率等と併せて分析し、料金収入以外の収入（一般会計からの繰入金等）への依存が大きい場合には、改善に向けた取組が必要。

出典：総務省ホームページより

収支状況の現状分析について ～収益の状況～

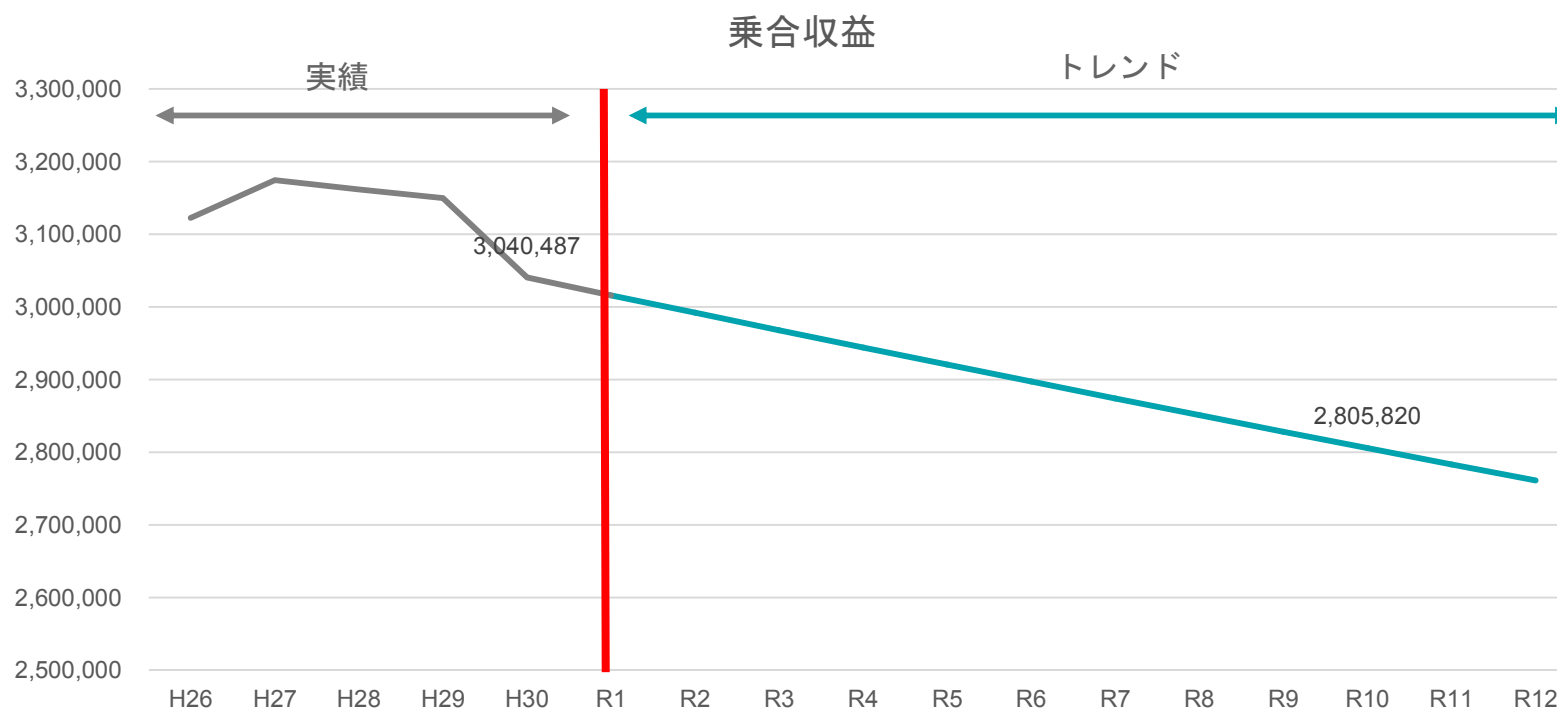
▶ 乗合収益は過去10年で8%（270百万円）減少



収支状況の現状分析について ～収益のトレンド～

- ▶ 過去10年の減少率（▲8%）が今後も続くと仮定した場合、令和10年度には、乗合収益が28億円と試算

(千円)



収支状況の現状分析について ～まとめ～

- ▶ ストック面から見た財務安全性は非常に高い
- ▶ フロー面では収支比率が減少傾向（他都市も同様）
- ▶ 収益が今後増加する可能性は低い



- ▶ 人口減少、高齢化が進展するなかで、今後もバス事業を安心安全とともに、継続的に運営していくためには...
収支を安定（赤字回避）させ、減価償却費により留保されるキャッシュフローによって、維持管理・更新投資を行っていく必要がある



経常損益の黒字を確保することが重要になる